

# 國學院大學學術情報リポジトリ

〔在校生・卒業生会員による研究発表〕 発達障害児の対人相互作用場面における不適切な言動への支援方法に関する研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 草野, 真輝, 渡邊, 雅俊 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00001378">https://doi.org/10.57529/00001378</a>

〔在校生・卒業生会員による研究発表〕

# 発達障害児の対人相互作用場面における 不適切な言動への支援方法に関する研究

草野 真輝 渡邊 雅俊

## 【キーワード】

発達障害児、対人相互作用場面、不適切な言動、怒りのコントロール、肯定的な評価

## 目 的

筆者らが、教育ボランティアで学習支援を行っている小学校において、周囲との相互作用場面で困難さを抱える児童の存在が確認された。児童の実態把握により感情のコントロールが不安定なことや自らの行動特性に関する自覚の弱さといった特性が、周囲との関わりを困難にしている可能性が示唆された。本研究では、このような特性のある児童を一事例とし、対人相互作用場面における不適切な言動への支援方法を検討することを目的とする。

## 方 法

- 1. 対象児** 対象となる児童は、著者らが大学在学中にボランティア・教育実習生として関わっている地域（相模原市内）の小学校の通常学級に在籍する、周囲との相互コミュニケーションにおいて困難さを抱える発達障害のある第4学年の女児（以下、A児）と、同学級内に在籍する周囲児及び通級で通っている特別支援学級に在籍する児童（仲間関係にある数名）である。なお、それぞれの学級の児童在籍数は通常学級が30名、特別支援学級が11名となっている。
- 2. 調査手続き 調査方法：**A児の困難さを明らかにするために予備観察を行い、周囲との対人相互作用場面における困難さに関する発話（「先生に怒られる」「みんなに強く注意される」等）を記録した。予備観察によって記録された困難さをカテゴリー化し不適切な言動を抽出した。周囲児との対人相互作用場面における観察を容易にするために「対人相互作用エピソード」という記録用紙を作成した。記録用紙には①開始場面②反応場面③介入場面④相互作用の成立の4項目を設けた。なお、介入場面については不適切な言動が出現した際に著者の即時的な介入により望ましいコミュニケーション教示を行った。介入を行う際には必ずA児に対する肯定的な評価（「上手に絵がかけたね」「元気よく活動できたね」「優しい言い方ができたね」等）を与えた。なお、観察・介入の時間帯は「中休み」とよばれる2校時目と3校時目の間、10：25～10：40の15分間で統一した。「中休み」は予備観察において当該児童と周囲児とのトラブルが最も多く観察され

た時間帯であったため採用した。

## 結果と考察

図1に、A児の対人関係場面の不適切な言動における中休み時間あたりの出現頻度の前期から後期までの推移を示した。

図1 対人関係場面の不適切な言動における出現頻度における前期から後期への推移



A児の不適切な言動の出現において、全期間を通して明らかな変化は認められなかった。自ら他者に関わるという場面においては、気持ちの整理をしてから行動を取るため比較的、混乱を招くということは少なかった。しかし、周囲児からA児に対する関わり場面においては感情のコントロールよりも先に対人相互作用が半強制的に働くため、混乱を招いてトラブルとなるということが多く観察された。これは先行研究等においても明らかにされているように、発達障害児は、対人関係での緊張感や感覚過敏などの障害特性から、不安感を強く持っている場合が多い（Attwood, 2004）ということが原因として挙げられる。本研究の介入方法だけでは、A児の不適切な言動を軽減することは難しいと考えられる。今後は発達障害児自らの感情についての理解促進や感情コントロールについて経験的に学ぶことができるようなプログラムの検討が必要であろう。

（くさのまさき 國學院大學人間開発学部初等教育学科4年生）

（わたなべまさとし 國學院大學人間開発学部初等教育学科教授）